

---

**約定 《少陰 朱雀×天一》**

蓮華

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

約定 《少陰 朱雀×天一》

### 【Nコード】

N5729Z

### 【作者名】

蓮華

### 【あらすじ】

少年陰陽師の二次創作。

朱雀×天一

ほのぼの・・・？

(前書き)

ふと思いついてかいたものです。

《朱雀×天一》

これはまだ晴明がまだ十二神将を式神にしてそう間もない時の話である・・・。

「天貴」

後ろからいつも傍にいてくれる優しい声が聞こえる。  
振り返ると予想通り彼の姿。

天一はその姿を認めるとふわりつと微笑む。

「朱雀。おかえりなさい・・・」

朱雀はその優しい微笑みに笑ってその逞しい腕で天一を優しく抱きしめる。

「ただいま天貴」

いつも一緒にいる二人だが、今日は主である晴明の使いである場所に向かっていた。

その用事が終わると晴明に報告をしてさっさと愛しの天一の元に戻ってきたのだ。

だが、報告の場面を見ていた人物がいたらこういうだろう・・・  
あれは報告というより言い捨てに近かった・・・と。

朱雀とてこの使いがよほど大事な用でなければちゃんと報告をして返事を帰ってから天一の元に戻っただろうが、  
今回は本当にどうでもいい事だったのでさっさと返事も聞かずに愛しの天一の元に戻ったのだ。  
そこはちゃんと理解していた。

朱雀は何十年ぶりかのように天一を抱きしめて天一もそれを返すように朱雀を抱きしめ返す。

・・・だが、勘違いをしてはいけない。

朱雀が使いに出たのは今日の朝。

そして今は夕方である。

数時間お互いが離れていただけである・・・。

「天貴、明日二人で桜を見に行こう」

「桜・・・ええ」

朱雀は体を僅かに離して優しく天一を見つめる。

天一もそれを不思議そうに返すがすぐにうれしそうに笑う。

季節は春。ちょうど桜の見頃の季節である。

「ですが・・・いいのですか？」

天一が心配しているのは主である晴明のことである。晴明は自分たち十二神将の意思を大切にしてくれているから

晴明は許してくれると思うけど勝手にいなくなると駄目なのではな

いかと思っっているのだ。  
朱雀は心配気な天一につつと笑う。

「大丈夫だ！ 晴明には言っつてある！ だから行こう天貴！」

「はい・・・！」

そう朱雀は使いを出す前晴明に天一と離されることに朱雀は怒りのオーラを纏い、その怒りをその主である人間にぶつけ、そしてその約定を取り付けていたのである。

後にその場に居合わせた神将は語る。その時の晴明の顔は真っ青であった。と。

だが、主である晴明が式神に約定を取らされるとは・・・なんともシユールである・・・。

そしてそれを不思議に思わずに頷く天一も天一であるが・・・。

翌日・・・。

天一と朱雀は二人つきりで桜を見に行き、それを知った晴明はその二人がいる場所には誰にも近づかせないように人避けの術を行使したのである。

この時、晴明の中で緊急の事態以外では朱雀と天一は放してはいけない。とい公式が出来上がったそうなの・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5729z/>

---

約定 《少陰 朱雀×天一》

2011年12月19日01時45分発行